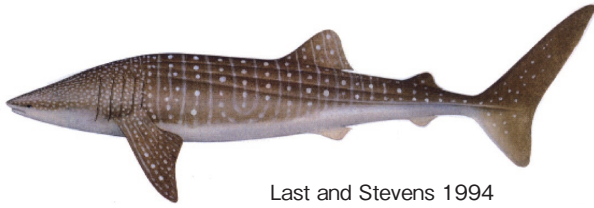


# ジンベエザメ 日本周辺

Whale Shark, *Rhincodon typus*



Last and Stevens 1994

## 管理・関係機関

絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約 (ワシントン条約, CITES)

## 最近一年間の動き

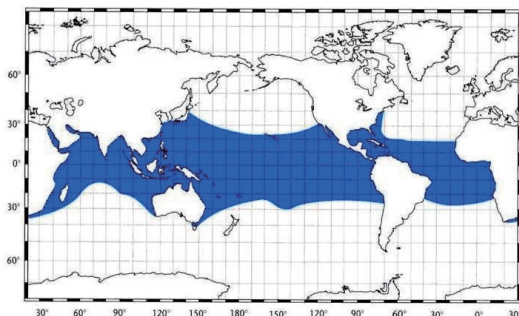
世界的に特に目立つ動きはなく、2008 年の日本周辺での出現は最近の中では最も多い 23 個体が確認されている。

## 生物学的特性

- 寿命：調査中
- 成熟開始年齢：調査中
- 繁殖期・繁殖域：熱帯の外洋域？
- 索餌場：熱帯・温帯域
- 食性：プランクトン、小魚 (イワシ、サバなど)
- 捕食者：調査中

## 利用・用途

フカヒレ・肉は食用になるが、日本ではほとんど利用されない。まき網・竿釣りのさめ付き操業の指標となる。近年、幾つかの水族館で飼育・展示されるようになった。



ジンベエザメの分布 (Last and Stevens, 1994)

## 漁業の特徴

我が国では本種を対象とした漁業はない。定置網による迷入は主に沖縄本島から九州、四国太平洋沿岸で起きているが、商業的価値はないので、普通、放流か廃棄され、ほとんど市場に水揚げされない。

## 漁業資源の動向

定置網による迷入は沖縄本島で 1979～1994 年の 16 年間に 78 尾 (年平均 4.9 尾)、季節は 3～9 月で夏が多い。四国太平洋岸では 1989～1993 年の 5 年間で 25 尾 (年平均 5 尾)、6・7 月が最も多い。日本周辺全体では毎年 2～23 尾程度である。

## 資源状態

日本に本種を漁獲する漁業はなく、資源を定量的に分析できる資料はない。しかし、全国の定置網に偶発的な迷入の記録等があり、また、まき網漁業のさめ付き操業の回数は 1990 年代に増大し、1996 年から 1998 年では毎年 200 回を越えている。双方の情報を考慮すると、日本周辺海域には毎年かなりの数が来遊してくると考えられる。

## 管理方策

過去の対象漁業による漁獲量と資源の減少、低い再生産率、そして将来の対象漁業と混獲による資源減少の可能性から、IUCN (国際自然保護連合) は本種を危急種に分類している。また、2002 年のワシントン条約第 12 回締約国会議のインド、フィリピン共同の附属書 II 掲載案は可決された。

## 資源評価まとめ

定量的に分析できる資料はない。

## 資源管理方策まとめ

- ワシントン条約附属書 II への掲載

## ジンベエザメ (日本周辺) の資源の現況 (要約表)

|         |                 |
|---------|-----------------|
| 資源水準    | 調査中             |
| 資源動向    | 調査中             |
| 世界の漁獲量  | 調査中             |
| 我が国の漁獲量 | 年間数尾から数十尾程度の混獲？ |